

○ 本校の概要

大田区立大森第一小学校 児童数 526名 学級数16学級 教員数21名 開校145年
特色:海苔付け・麦わら細工・大〜バレード(運動会での6年生の鼓舞バレード)
平成30・令和元年度 大田区教育委員会教育推進校 令和元2年度 東京都教育委員会持続可能な社会づくりに向けた教育推進校
研究主題 あしたへつなぐ、わたしたちにできること・・・ 一持続可能な社会の実現に向けて、自分ごと化をすめ、子供たちの深い学びを育む大森第一小のSDGsー

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

		目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
									評価	人数	コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。 4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。	3	4:「社会の変化に対応する子供たちを育てるための教育活動(論理的思考力・外国語・ICT機器の活用・体力向上・人権教育)」に学校は取り組んでいる」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が90パーセント以上。	3	各教室に設置されている電子黒板やタブレットパソコンなど、ICT機器を積極的に活用することができている。より分かりやすい授業づくりの活用のため努める。	A	5	・ICT機器を、積極的に活用している様子が見られた。今後も校内での研修などを計画的に関くなど、機器を有効に活用し、児童にとってわかりやすい授業が実現するように努力してほしい。また、情報リテラシー教育についても、引き続き充実を図ってほしい。	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	3	3:「社会の変化に対応する子供たちを育てるための教育活動(論理的思考力・外国語・ICT機器の活用・体力向上・人権教育)」に学校は取り組んでいる」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が80パーセント以上。	3	昨年度の体力テストの結果を元に体力向上全体計画を作成した。素間などに様々な運動に取り組むことができる「大一小スポーツツラ」を企画し、意図的・計画的に活動することができた。	B	1		
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	2:「社会の変化に対応する子供たちを育てるための教育活動(論理的思考力・外国語・ICT機器の活用・体力向上・人権教育)」に学校は取り組んでいる」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が70パーセント以上。	3	一校一取組のグラフ化など、体力向上に関わる校内掲示を充実させてきた。今後さらに、児童の興味関心を高めることを目的として、掲示物の検討を図っていく。	C	0		
		地域教材を活用して、児童が地域住民と関わり、地域に愛着や誇りをもてるような授業を実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	1:「社会の変化に対応する子供たちを育てるための教育活動(論理的思考力・外国語・ICT機器の活用・体力向上・人権教育)」に学校は取り組んでいる」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が70パーセント未満。	3		D	0		
プラン2 学力的向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	4:「学校は、基礎的・基本的な学力の定着に取り組んでいる」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が90パーセント以上。	3	今年度学習効果測定の結果や日常の児童の学習における課題をもとに、改善プランを作成し、授業に生かすことができた。	A	3	・学習効果測定等の学力検査の結果を基に、今後も継続して児童の学力向上のための方策を講じてほしい。 ・ESDの視点に立った校内研究の取り組みは、「大森の海苔」「ふるさとの浜辺公園」など、ふるさとの地域性を取り入れているため評価できる。その意義が広く理解されるように、今後も期待している。	
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2〜3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3	3:「学校は、基礎的・基本的な学力の定着に取り組んでいる」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が80パーセント以上。	3	ステップ学習チェックシートや学習カルテを活用することで、各学期の学習内容定着度を把握し、各学年の課題を明らかにすることができた。	B	3		
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	3	2:「学校は、基礎的・基本的な学力の定着に取り組んでいる」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が70パーセント以上。	3	まなびの掲示板やてわり班活動などが充実している。今後も、活動を見直しながらより効果的かつ効果的な実施方法を検討していく。	C	0		
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	1:「学校は、基礎的・基本的な学力の定着に取り組んでいる」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が70パーセント未満。	3		D	0		
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	4:「児童に善悪の判断力が高まった」「学校は、児童の側に立つた適切な指導と迅速な対応をしている」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が90パーセント以上。	3	生活指導における指導規程である大ススタンダードの見直し・徹底の取り組みを進めるなど、教員の共通理解組織的な指導を行っている。児童のひととの関わり方や校内でのルールの順守等の課題に引き続き取り組んでいく。	A	4	・児童手帳「大一小の子ども」の見直しや大ススタンダードの徹底に取り組むなど、生活・学習規律の定着に努力している。全校をあげての意図的・計画的な取り組みの積み重ねが、児童の姿となって表れてきている。 ・児童等の礼儀が正しく、指導だけでなく自身が進んで身に付けたものと感じられる。挨拶などについては、さらに指導を継続してほしい。	
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2〜3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	3:「児童に善悪の判断力が高まった」「学校は、児童の側に立つた適切な指導と迅速な対応をしている」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が80パーセント以上。	3	自己肯定感測定カルテや児童の相互評価シートの活用について改めて検討を加え、自己を見つめる力や人と関わる力の伸長に努めていく。	B	2		
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	2:「児童に善悪の判断力が高まった」「学校は、児童の側に立つた適切な指導と迅速な対応をしている」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が70パーセント以上。	3	生活指導における指導規程である大ススタンダードの見直し・徹底の取り組みを進めるなど、教員の共通理解組織的な指導を行っている。児童のひととの関わり方や校内でのルールの順守等の課題に引き続き取り組んでいく。	C	0		
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	1:「児童に善悪の判断力が高まった」「学校は、児童の側に立つた適切な指導と迅速な対応をしている」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が70パーセント未満。	3		D	0		
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	4:「児童の体力が高まった」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が90パーセント以上。	3	日常生活における食事について正しく理解し、望ましい食習慣が身に付くように、「食に関する指導計画」を作成し、児童の発達段階に応じて指導を行ってきた。	A	4	・今夏に迫った東京オリンピック・パラリンピックに向けて、掲示物やゲストティーチャーによる授業など、さまざまな側面から、意識の向上を図っていた。今後も、児童の興味関心を高め、2020大会を子供たちなりに当事者意識をもって迎えられるように努力してほしい。	
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	3:「児童の体力が高まった」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が80パーセント以上。	3	東京2020大会に向けて、オリンピック・パラリンピックコーナー、体験学習をより充実させ、オリパラに関する意欲を高めることができた。	B	2		
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	2:「児童の体力が高まった」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が70パーセント以上。	3	体育の授業や休み時間に様々な運動に取り組むことができる「大一小スポーツツラ」に取り組むことができた。今年度の体力テストの結果や反省なども参考にしながら、さらに計画的に実施できるように検討していく。	C	0		
		計画的に体づくり運動やリズムランニングを実施したり、大一小スポーツツラをはじめとする運動に親しめる環境を設定したり、普段の学習の中にオリンピック・パラリンピック教育を推進したりする。	4:「組織的対応おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	1:「児童の体力が高まった」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が70パーセント未満。	3		D	0		
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	4:保護者による授業評価において、「分かりやすい授業をしている」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が90パーセント以上。	3	児童が主体的に学び、「わかった」「できた」と成就感や満足感が得られる授業を念頭にいただいた教材研究を心掛ける。	A	4		
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2〜3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	3:保護者による授業評価において、「分かりやすい授業をしている」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が80パーセント以上。	3	月に一度設定した特別支援教育校内委員会を、特別支援教育に関する理解を深めるとともに、ケースに応じた対処の仕方について研修することができている。	B	2		
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	2:保護者による授業評価において、「分かりやすい授業をしている」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が70パーセント以上。	3		C	0		
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:学期に2〜3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	1:保護者による授業評価において、「分かりやすい授業をしている」と地域・保護者のアンケートで回答した割合が70パーセント未満。	3		D	0		
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2〜3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	2	4:「学校は状況発信に努めている」「学校は教育活動を理解してもらえよう公開を行っている」と地域・保護者アンケートで回答した割合が90パーセント以上。	3	学校だよりに加え、「ほけんだより」「食育だより」「校内研究だより」を発行することで、学校での教育活動、児童の様子が年間を通して分かりやすく発信するよう努めている。	A	4	・各種の「たより」と学校ホームページなどを通じて、行事や日常の学校生活の様子を知ることができた。 ・負担過多にならない範囲で、教員も地域行事などに参加するなど、地域との連携を密にする。地域と関わる取り組みを続けていってほしい。 ・毎月発行される「貴船だより」を地域住民に回覧している。地域や家庭での話題としてあがっている。		
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の発着等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3	3:「学校は状況発信に努めている」「学校は教育活動を理解してもらえよう公開を行っている」と地域・保護者アンケートで回答した割合が80パーセント以上。	3	ホームページについては、地域や保護者の関心の高まらうかがあるので、定期的かつタイムリーにアップできるように努めていく。	B	2		
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期1回以上行った。 3:年1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	2:「学校は状況発信に努めている」「学校は教育活動を理解してもらえよう公開を行っている」と地域・保護者アンケートで回答した割合が70パーセント以上。	3	来年度は、地域行事の年間スケジュールを年度当初に確認し、教員全体で参加予定を調整しながら、参加者リストを作成する。	C	0		
		見守り隊、おやじの会、金管バンド、夏休みワクワクスクールなど、地域の方々や児童が触れ合ったり、地域の中で活躍したりできるようにする。	4:「組織的対応おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	1:「学校は状況発信に努めている」「学校は教育活動を理解してもらえよう公開を行っている」と地域・保護者アンケートで回答した割合が70パーセント未満。	3	学校での教育活動だけでなく、児童が地域と関わる場に、教員も参加することはできるようになっている。今後は、さらに教員自身が、地域についての理解を深め、学校・保護者・地域が一体となって、児童を育む環境づくりに努めていく。	D	0		
		教員が地域の行事や活動に参加する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	2							

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。